

斉一性とは ～当たり前前の方が当たり前前ができる学校に～

わたくしが「斉一性」「斉一的に」という言葉をよく使っております。学校経営の「キーワード」ともなりますので、このことについて、数号連続で説明をいたします。

学力調査で10年にわたり全国でトップを維持している秋田県。上位の常連の福井県。いずれの県に見られる特徴が「斉一性」です。

辞書をひもとくと以下の意味が書かれています。

【斉一性】 一様に同じ状態を保ち揃っている性質、および、その度合いを意味する語。

【自然の斉一性】 同一条件のもとでは同様の性質・組織をもち、同様の変化をするということ。

【斉一性の原理】 ある特定の集団が集団の内部において異論や反論などの存在を許容せずにある特定の方向に進んでいく事を示す。

なんとなく「わかるような」「わからないような」抽象的な文章ですね。具体例を上げます。

秋田の小学校は、日本で一番斉一性が図られている地域と言われているそうです。(某大学教育学部教授の講演より)

具体的には、「朝、集団登校で班長さんを中心に自主的に集合整列できるので、保護者の手がかからない」「道すがら、地域の方への挨拶が気持ちよくできる。登校してからも同様」「給食準備、清掃に黙々と取り組み教師の手がかからない」「忘れ物が少ない」「学習・生活規律が定着している」などです。この特徴は全ての教室で例外なく見られると言われます。

このような学校は、教師が授業研究に没頭する環境が整っていることが自明ですね。ざっくり言えば**斉一性が整っている学校とは、「当たり前前の方が当たり前前ができる学校」ということ**なのです。福井県にも同様の特徴が見られると聞きました。(某校長からの教育視察報告より)

言い換えれば、斉一性が一番定着しにくい地域が東京都と言えるのではないのでしょうか。

私は、斉一性を定着することが、学校の組織力を高める最大の要素として、これまで8年間学校経営を進めてまいりました。来年度の経営に向けてより明確に斉一性への取り組みをマネジメントしてまいります。

画一的という言葉もあります。「何もかも一様に揃っていて個性や特徴がないさま」「一つの枠にはめ込むさま」という意味です。斉一性とは対極的な言葉であるにご理解ください。

先日発信した重点プランも斉一的に取り組むべき内容です。全教職員のみなさまが例外なく実践することによって大きなプラスの「ベクトル」が生まれると確信をしております。

次号では、板橋区の校長の時に、秋田県（由利本荘市）への教育視察の際に「斉一性」を強く実感した具体事例をお伝えいたします。